

大学受験 NOW

新課程控え「安全志向」

定員増 受験生に追い風の中

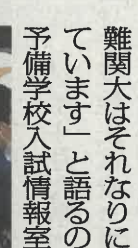
2024年度大学入試(24年4月入学)は総合型選抜が始まった。23年度は導入3年目の大学入学共通テスト(共通テスト)の平均点が回復して「安定飛行」に。一方、翌年に「新課程」を控える24年度入試。どう動くか。

飯山太郎

24年度入試は「旧課程」で最後の入試だ。ゆえに受験生は「安全志向」に動いている。

では、旧課程最後の24年度の志望動向はどうか。「国公立大で言えば、最難関大が若干絞られ、難関

い学習指導要領が実施された。25年度入試では「新学習指導要領による」「新課程」で学んだ最初の高校3年生が挑み、共通テストに「情報」などが加わる。逆に言えば、24年度入試に臨む現役生は、最後の旧課程で学んだ受験生となる。



まっけていて、大都市部の進
難関大はそれなりに集まっ
ています」と語るのは駿台
予備学校入試情報室の石原

浪人すると、次は入試の変更がある。ならば希望を変え、難易度を下げてでも変わる前に大学に入っておきたい。そんな心理が受験生に働くのは不思議ではない。現に共通テストが初実施だった21年度入試は、私立大の一般選抜の志願者が前年比で戦後最大の14%減となった。これは共通テスト導入を嫌い、前年20年度入試のうちに合格大学に入る受験生が多かったことが要因とみられている。

理系人気コロナの影響なお

賢一部長だ。7月に実施した駿台の共通テスト模試で見ると、東京大と京都大の最難関は微減、他の旧帝大に一橋大と東京工業大を加えた難関大は東日本中心に志望増。筑波大に千葉大、横浜国立大や大阪公立大など大都市圏の準難関大は志望増となっており、「やや安全志向が働いています」と現状を分析する。

年₁は日本の合計特殊出生率が当時の過去最低を記録。そのため18歳人口は04年生まれより約3万4000人減っている。大学の定員は全国で合計すると約3000人の増。競争相手の減少が著しい一方、「パイ」は大きくなるのが24年度入試の特徴の一つなのだ。

また、新課程で初実施の25年度入試では浪人生向けは「現役生は過去問がないのに、浪人生は過去問で対策ができます。浪人生は過去にないくらい手厚い経過措置です」。

それだけに「大学受験の間口は広がっています。安易な妥協は結果的に損をすることになる。いろんな事情はあるとは思いますが、特に私立大専願者は第1志望を必ず受けるつも

学部別の志望動向は「理
だ、5月からコロナ禍によ
る行動制限もなくなり、そ
れも志望動向に表れてい
る。学部系統別の志望動向
ないのだと思います」



理系学部人気が続いた。た

手の関係者は「医系や理系、農・水産系は前年を上回っており、引き続き人気が高いです。ただ、薬系や保健衛生系は前年を下回っています。両系統はコロナ禍の間は総じて人気でした。それだけにコロナ禍も理系人氣も、少し落ち着きを取り戻してきたのではないでしょうか」と語る。

ただ、医学部人氣は引き続き高い。ここにコロナ禍

試を見据え、早い段階から準備する受験生が多い。それでも思春期に、さまざまな経験を重ね、自らの将来の在り方を考え直す者もいる。だが、コロナ禍によりこれらへの接点が減り、「初志貫徹」であることが高い医学部人氣となっているようだ。石原氏は「このようなコロナ禍の影響は、しばらく続くと思います」とも付け加えた。

目を迎え、会場となつ
試験に臨む受験生たち
14日、宮武祐希撮影

と、石原氏を見る。

「現在の高3生は中2か
ら中3に進級する時に、い
わゆる『一斉休校』を経験
した年代になります。一番
多感な時期に、さまざまな
情報から閉ざされ、多様な



女子枠一定の効果

24年度入試は「女子枠」も注目だ。特に東京工業大は総合型選抜と学校推薦型選抜に女子枠を設ける。同大は文部科学省から教育・研究水準が国内トップクラスの「指定国立大学法人」となっている。同じく指定

国立大の東京医科歯科大とは24年秋までの統合を目指すとして合意。指定国立大間の統合は国内初で注目もされており、統合後は「東京科学大」となる。

「大手予備校の今夏の模試では東工大の志望者が、前年比で1割以上の増でした。女子卒効果と思われま

す」と話すのは、大学通信情報調査・編集部の井沢秀部長だ。女子卒が女子学生の増加につながるか。受験

格率が高まっており、「リガル女子」というのか、難予想もしない問題が出ることを想定し、とにかくさま

校推薦選抜で電気電子情報工学科で6人、エネルギー子の志望動向も注目だ。

役生は最後まで模試でA判定

で募集しました。すると同選抜での女子の志願者が前年比で前者3人から9人、後者は1人から5人に増えました。一般選抜でも両学科は志願者が倍増しました。

データサイエンス経営や千葉大の情報・データサイエンス、千葉工業大の情報変革科や明治学院大の情報数理など、国公立と私立の双方でデータサイエンス系を送った。

とんどです。でも、逆に言えば、最後まで伸びるということですよ。諦めず志望校に向かって頑張ってほしいですね」と石原氏はエールを送った。

た。やはり女子卒の効果は大きいと思います」

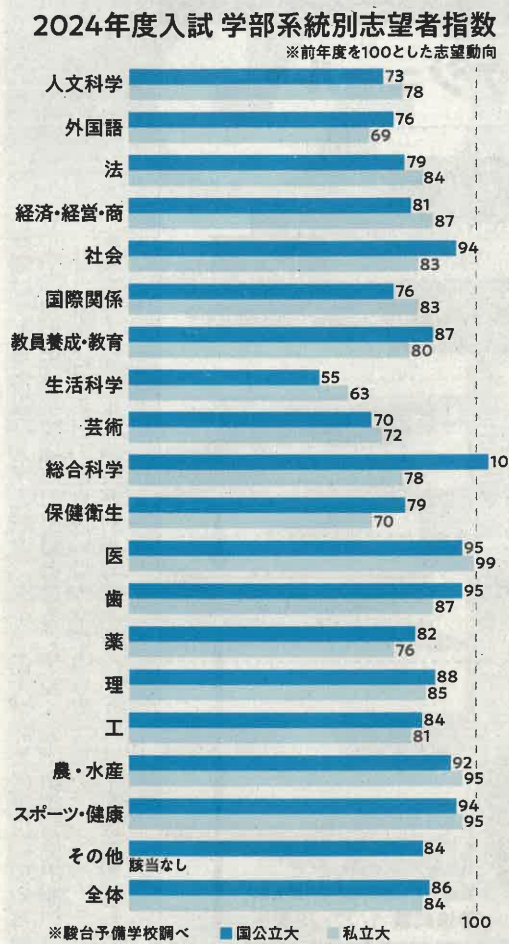
文系も23年度入試は、東大の文系最難関とされる文科1類（法学部相当）で女子の合格者の割合が3割を

学部新設が相次ぐ。一方、武蔵野大のウエルビーイングや順天堂大の薬など、大学独自の取り組みや長年培った伝統を生かして新設される学部もある。

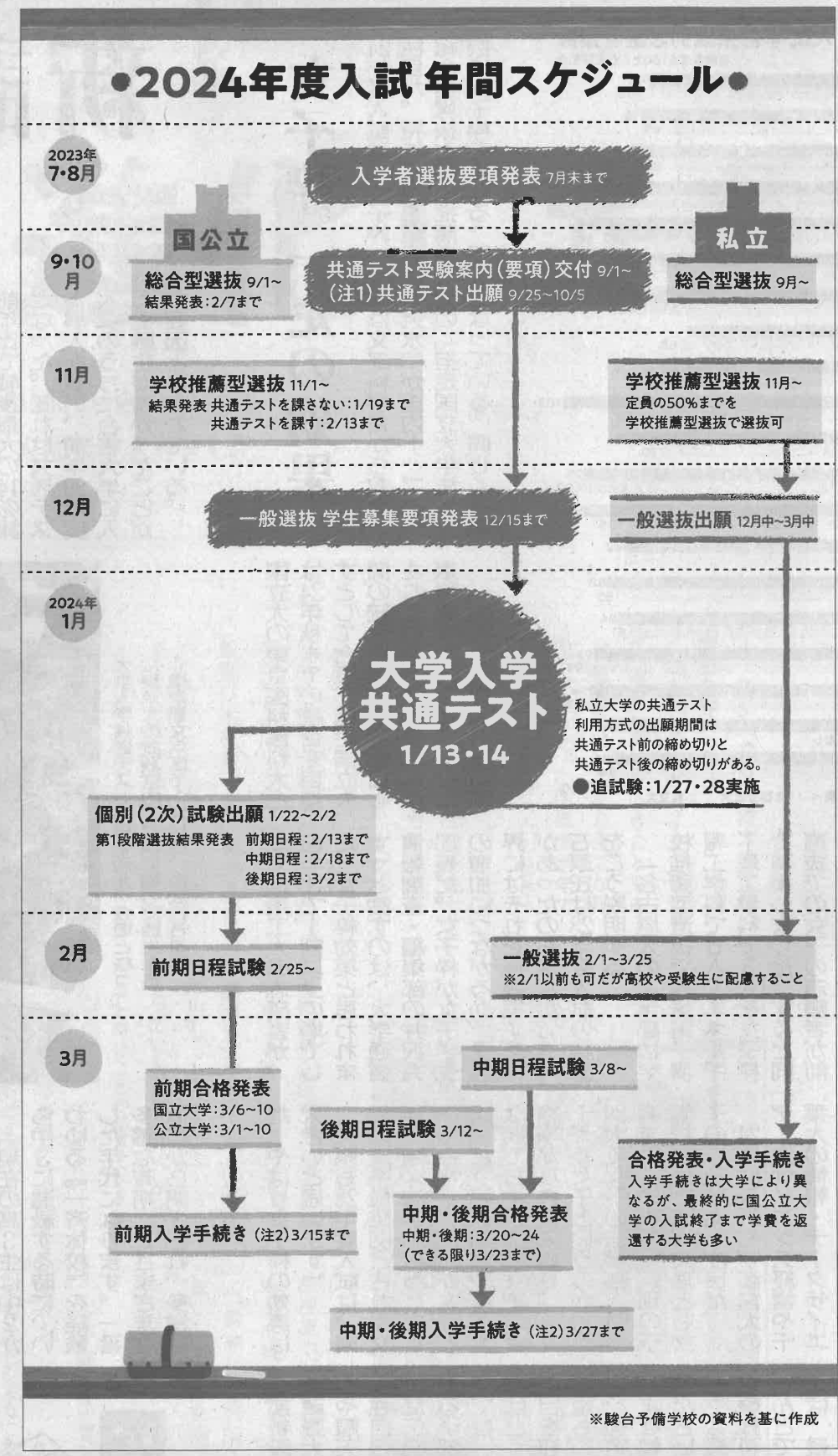
などでも法学部で女子の合格率が高まっており、「リガル女子というのか、難関大で女子の法学部人氣が高まっています」（別の予備校関係者）。文理とも女子の志望動向も注目だ。

24年度入試も宇都宮大のデータサイエンス経営や千葉大の情報・データサイエンス、千葉工業大の情報変革科や明治学院大の情報数理など、国公立と私立の双方でデータサイエンス系の

生はどう備えるべきか。4年目を迎える共通テストは予想もしない問題が出ることを想定し、とにかくさまざまな模試に当たってみてください。残念ながら、現役生は最後まで模試でA判定やB判定が出ない人がほとんどです。でも、逆に言えば、最後まで伸びるということです。諦めず志望校に向かって頑張ってほしいですね」と石原氏はエールを送った。



強気の志願を大切に



詳細は文部科学省、大学入試センター、各大学発表の選抜要項や募集要項等の確認を。
(注1) 現役生は学校経由の出願となる。学校への出願書類提出期限は各学校で別途指示されるので、それに従うこと。
(注2) 手続き最終日の取り扱いが大学により異なる。
新型コロナウイルス感染症対策等により、スケジュールは変更される場合がある。



しろた・たかし 駿台予備学校の東大専門校舎・医学部専門校舎や現役生専門校舎などで、長年にわたり進路指導を担当。校舎責任者を経て現職。

2024年度大学入試(24年4月入学)は「旧課程」最後の入試となる。これまで翌年の変更を避け、受験生は安全志向に走ってきたのが受験の歴史だ。一方、近年は各大学とも就職支援に力を入れているが、その現状は。大学受験の歴史は駿台予備学校入試情報室部長の城田高士さん、就活支援は大学通信情報調査・編集部長の井沢秀さん、両エキスパートに聞いた。

駿台予備学校入試情報室部長

城田高士さん

24年度入試は「新課程入試」を翌年に控え、総合型・学校推薦型選抜などの「年内入試」で進学先を決めたり、第1志望より難易度の低い大学を受けたり、「安全志向」が強まると思われる。大学受験の歴史を見てみると、課程の変更などの「得体のしれない変化への恐怖感」から、安全な方向へと走る受験生の志向が見てとれるからです。

学習指導要領の改訂は何度か行われています。高校の場合は新課程導入の3年目が「新課程入試」の初年度、そ

の前年度が旧課程最後の入試となります。05年度入試は、それまでの旧課程で最後の入試でしたが、浪人の発生数が前年度比マイナス14・3%でした。これは06年度の大学入試センター試験から、追加される英語のリスニングを敬遠しての大幅減と見られています。14年度も同様で、浪人発生数は同比マイナス12・9%。こちらは15年度から「ゆとり教育からの脱却」がうたわれ、理科基礎2科目がセンター試験に課されるなどの変更があったからです。

しかし、過去の「新課程初年度」と比べて見ると、今回25年度入試は何も恐れることはありません。大きな変化は共通テストに新教科「情報」が加わることです。プログラ

ミングの考え方や、論理的に課題を解決するための手段・方法を組み立てていく力が求められているものですが、基礎知識を身に付ければ対応は十分に可能です。

また、気になるのは地理歴史・公民や数学でしょう。例えば、世界史Bは「歴史総合、世界史探究」などに変わっています。さらに、数学では「数学C」が新たに加わります。こちらは平面上の曲線と複素数平面という理系しか学んでこなかった分野が、文系にも組み込まれるようになりました。ただ、旧課程の履修生、要は24年度入試で浪人を選出した受験生には、共通テストで地理歴史・公民、数学、情報に旧課程履修者用の問題が用意されます。国公立大の個別試験や私立大の入試問題でも配慮がされます。

このように、25年度入試は浪人生に対する手厚い「経過措置」が取られます。たとえ浪人しても、一定のアドバンテージがあるため決して「浪人不利」にはなりません。さらに、24年度入試は、周囲の受験生の多くが「安全志向」のため、ライバルが減る傾向となります。弱気の受験になるよりも、第1志望を貫く強気の姿勢が求められるのではないのでしょうか。

仮に現役での受験に失敗してもセカンドチャンスはより優位な立場で臨めます。自分

将来見据え進路選択を

志望校や夢 親子で話し合って

受験本番が近づくと、保護者も落ち着かない日々が続く。大学入試は保護者が経験したところと大きく変化しており、不安も募りがち。「保護者に知ってもらいたい大学入試のいま」や「保護者はどのような受験生を支えるべきか」などを、駿台予備学校お茶の水校3号館東大専門校舎の責任者、吉井素子さんに聞いた。

駿台予備学校 吉井素子さん

大学入試を取り巻く環境は、どのように変わっていますか？

◆今や、受験人口はピーク時の約半数。選ばなければ大学生になれる時代になりました。だからこそ、お子さんがやりたいことや将来を見据えた大学・学部・学科選びをサポートしていただきたいです。

◆偏差値だけでなく、何を学びたいかや、学べる環境を重視して選ぶということでしょうか。

◆大学改革や学部改編が進み、保護者世代ではなじみの薄かった大学や学部が目玉を集めている場合もあります。保護者の大学入試の感覚とは異なっていることも多いのは確かです。志望校選択には、重視するポイント、興味があること、将来の夢などを親子で話しておく、大学選びに幅



駿台予備学校の吉井素子さん

「大学入試センター試験」か

ら、「大学入学共通テスト」に変わりました。

◆2021年から始まった共通テストでは、読解力や思考力を問う問題が多く取り入れられました。センター試験は暗記量を問われる出題が頻出しましたが、共通テストは

スケジュール共有重要

◆高3生は入試が間近になってきました。保護者がすべきことは何でしょうか。

◆保護者は見守り、陰からサポートすることが大切です。できることは「生活面・経済面のサポート」「出願のサポート」「精神面のサポート」などがあります。

◆高3生は入試が間近になってきました。保護者がすべきことは何でしょうか。

◆生活面では、子どもが規則正しい生活を送れるようにすることが大切です。また、冬はインフルエンザが流行しやすいので、新型コロナウイルス感染症もまだまだ気が抜けません。健康管理は家族全員で取り組んでほしいものです。

受験生をもつ親がすべきこと

- 規則正しい生活を送らせる
- 出願スケジュールの把握
- 精神的な支えになる
- 受験を正しく理解する

受験生をもつ親がやってはいけないこと

- 頑張りや否定する
- 干渉のし過ぎ
- 価値観の押しつけ
- 勉強に口を出し過ぎる

をつけるサポートとは？

◆ニュースや新聞の記事など、一つの事柄を家族で話し合う習慣ができるとよいですね。入試問題には、今の社会問題が取り上げられていることがあります。世の中で何が起きているのかをメディアなどの情報を得て、自分の考えを言葉で伝えられるようにしてあげるのもよいでしょう。

◆逆には、やってはいけないことは何でしょうか。

◆子どもの頑張りや考えを頭ごなしに否定することです。「こんな成績じゃ受からない」「志望校のレベルを下げるべきだ」などの言葉は、子どものモチベーション低下やストレスにつながります。

秋の模試で合格圏内に入っている受験生は多くはありますが、むしろ現役生は直前に成績が伸びることも多いです。保護者の価値観の押しつけ、干渉のし過ぎもよくありません。保護者の不安や疑問は、学校や予備校に相談してみるのがよいかもしれません。

◆つい、安全志向になりがちですが。

◆保護者は、失敗させたくないと思いがちです。もう少し頑張り手が届くのに、早々に諦めさせるようなことを言ってしまう。これまで、志望校の受験を諦め、後悔している受験生を多く見てきましたので、第一志望の大学には最後まで粘って、挑戦してほしいです。

◆大学受験は保護者と受験生にとって、どんなものなのでしょうか。

◆大学受験は受験生にとって自立への大きな一歩です。受験生は自分と向き合い将来を考え、保護者はそれを見守ることで、徐々に子離れしていきます。子どもが大人として歩み始める、家族にとってよい機会ともなります。

◆現在の入試では、出願や書類の提出、合格発表、入学金の支払期日などスケジュールは複雑で、受験生だけでは把握しきれない場合もあるでしょう。受験日を間違えたり、せっかく合格したのに手続き期限を失念するなど、日程確認のミスによる残念な結果は意外とあるものです。スケジュールを可視化し一覧表にするなどして、家族で共有してください。

◆精神面ではつらそうな時に

データサイエンス脚光

近年、全国の大学で情報系やデータサイエンスに関する学部や学科の開設が相次いでいる。社会が求めているデジタル人材の育成が背景にある。

内閣府と文部科学省は今年6月、東京23区にある大学の定員規制を一部緩和する府省令を公布し、2024年度から情報系学部・学科の理工系分野に限って増員を認めた。人工知能（AI）やデータサイエンスに精通したデジタル人材を育成するのが狙いだ。

デジタル人材育成急務

政府は地方での進学を促すため、18年に23区にある大学の定員増を原則禁止する新法を制定したが、デジタル人材不足が続いていることから大学数が多い23区を活用する方針に転換した。

デジタル人材をめぐっては、情報技術（IT）に関する高度な知識やノウハウを持つ人材として当初、IT人材という呼称が一般的だった。経済産業省が19年に公表した「IT人材需給に関する調査」の報告書に

によると、IT人材の不足は、需要の伸びが中程度（約5〜2倍）だった場合、30年には45万人に上ると試算される。

デジタル人材とは以前は、ITに詳しい人や最新技術を知っている人、システム開発をする特殊な人材を指していた。しかし、技術革新によりすべての職種にデジタルが必要になってきている現在では、さまざまな業務でデジタルトランスフォーメーション（DX）ができる人や、顧客が必要

なデジタル情報を理解している人を意味するようになっている。

リクルート進学総研の小林浩所長はデジタル人材について「バズワード（流行の言葉）化しており、定義はあまり明確ではない。時代によって求められるデジタル人材は変わってくる」と指摘。かつてはコンピュータの中で閉じていたデータが、クラウドで世界中で共有できるようになった。小林所長は「今は、クラウドに入っている情報を引っ張り出して活用するようになってきている。たとえば、生成系AIが出してきたものをそのまま受け取るのではなく、自分なりに解釈し

ていくことが大事」と強調している。

また、ビッグデータを数



受験生を応援！ プレゼント付き！
アンケートのお願い

「大学受験NOW」について、アンケートのご協力をお願いします。締め切りは12月12日（火）午後8時です。上記の二次元コードか、次のURLから。https://entry.mainichi.jp/app/daigaku2309t/

プレゼントはこちら
①図書カードNEXT 5000円分 40人
②「時事問題学習におすすぬ、2023年度版ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編（1・2・準2級対応） 10人